



インスピレーションになろう

RI 会長テーマ

2018~2019 年度

大船渡西ロータリークラブ会報

七福人



会 長 浜田 浩誠

副会長 木下 彰則

幹 事 菅野 嘉洋

＝会長指針＝

初心を忘れず、寛容の心で

よりよい奉仕を進めよう

．．． 例 会 記 録 ．．．

10月第3週例会 2018年10月18日(木)

ソング : それこそロータリー ボックス : 3,600円 (報告者 大西 竜介会員)

本日出席率 : 69.23% 前回修正後100% (メンバー 17名) (報告者 紀室 綾子会員)

★ 会長の時間 浜田浩誠会長



先週土曜日は、野球と北上西 RC50 周年と MOA の表彰式もあり人の確保にちょっとだけ苦労しましたが、周年行事の方は私と幹事、MOA の方は大西さんについて頂きました。

野球大会は、7対0の大勝らしく、又、水野さんが大活躍したらしいのですが、三田地さんのランニングホームランがあったそうで大活躍が薄れてしまったそうですが、間違いなく水野さんの大活躍のお陰で勝利をおさめたそうです。

野球の甲子園についてですが、今まで私はロータリー野球は必ず甲子園に行けるものだと思っていましたが、知らない方もいると思うので改めて言いますと、県で2チームしか行けないそうです。では、なぜ毎年西クラブが行けているのか？不思議に思いました。

私が RC に入会したての頃は、今まで勝ったことが無いというクラブでした。直ぐに、野球部に入れと言われていましたが私は、若い頃に肩を壊して投げられないので入れませんとお断りしました。

それでも、学生の頃体力測定の遠投で県の記録を破った事もあります。すみません自慢です(笑)。

何処のクラブか覚えていませんが、末崎の市営球場で試合があった時、カメラマンをやってほしいとのでしたので、当日望遠カメラを担いで撮影しましたが、非常に面白い野球でカメラのファインダーを覗くよりも直に見ていたい位面白かったです。

守ってもエラーはあるし、投げてもボールは届かないし、外野フライは、獲れないのが普通でした。

外野フライで、頭上オーバーなんてことになる走れないし届かないのでランニングホームラン？になりそうな勢いなのですが、そこは相手も走れないので2塁打とか3塁打どまりなのです。

この日がきっかけになったのかどうか分かりませんが初めての勝利でみんな嬉しそうでした。

話は、前に戻りますが、県で2チームしか行けないのになぜ弱かったチームが行けたのか？

大船渡クラブは、昔から強かったので分かります。なぜ、西クラブは行けるのでしょうか？

実は、岩手県のロータリークラブは、大船渡クラブと、大船渡西クラブしか野球チームが無いそうです。

前に、釜石にもチームがあったそうですが現在は無いのでこしばらくは、甲子園に行けそうです。

万が一、岩手県に他のチームが出来ても今は、若い野球経験者が多いのできっと勝つことでしょう。

それでももし負けたら、日頃市に鹿や猿の動物園か、リンゴやブドウ狩りの出来るところでも作って、かつし園と名付けてそこに行きましょう！漢字で書けばかつし園も甲子園も一緒です(笑)。

以上会長の時間を終わります。ありがとうございました。

◆◆◆ 幹事報告 ◆◆◆

- 1 大船渡ロータリークラブより
東北地区ロータリークラブ親睦野球大会及び前夜祭参加へのお礼状が届いています。
- 2 岩手県立大船渡東高等学校より 創立 10 周年記念式典参加への礼状が届いています。
- 3 MOA 美術館気仙地区児童作品展実行委員会より
作品展開催協力への礼状と全国児童作品展の冊子が届いています。
- 4 米山記念奨学会より マンスリーニュース「ハイライトよねやま」が届いています。
《今月のピックアップ記事》

台湾米山学友会から災害義援金が届きました

9月上旬、日本列島は台風 21 号と北海道胆振東部地震に相次いで見舞われ、各被災地のインフラは大きな打撃を受けました。
台湾米山学友会では 9 月 8 日の役員会にて、全会一致で募金活動を決定。
約 3 週間で 28 万 6,500 元 (約 105 万円) を集めました。
この義援金は、当会を経由して、第 2660 地区と第 2510 地区に送られる予定です。
同学友会の呉憲璋理事長は「今回の台風と地震による被害に我々は皆、大変驚き、直ちに募金を開始しました。台湾米山会一同、一日も早い被災地の再建と復興を心より祈っております」とのメッセージを寄せてくれました。

◆◆◆ 本日のプログラム ◆◆◆

米山アワー : 門田 崇米山記念奨学会委員長卓話



米山記念奨学会の誕生

米山奨学事業は日本最初のロータリークラブ創立(大正 9 年、東京ロータリークラブ)に貢献(初代会長)した実業家米山梅吉氏の功績を記念して発足しました。

1952 年(昭和 27 年)に東京ロータリークラブで始められたこの事業(当初は米山基金)はやがて日本の全クラブの共同事業に発展し、1967 年(昭和 42 年)、文部省(現在の文部科学省)の認可を得て、財団法人ロータリー米山記念奨学会となりました。(現在は公益法人ロータリー米山記念奨学会となる。2012 年)

奉仕の人「米山梅吉」 (1868-1946)

米山梅吉氏は幼少にして父と死別し、母の手一つで育てられました。16 歳の時、静岡県長泉町から上京し、働きながら勉学に励みました。20 歳で米国に渡り、ベルモント・アカデミー(カリフォルニア州)、ウエスレヤン大学(オハイオ州)、シラキュース大学(ニューヨーク州)で 8 年間の苦学の留学生活を送りました。帰国後文筆家を志して勝海舟に師事しますが、友人の薦めで三井銀行に入社し常務取締役となり、その後、三井信託(株)を創立し取締役社長に就任しました。信託業法が制定されると逸早く信託会社を創立して新分野を開拓し(三井報恩会)その目的を“社会への貢献”とするなど、今日でいうフィランソロピーの基盤を作りました。

晩年は財団法人三井報恩会の理事長となり、ハンセン病・結核・ガン研究の助成など多くの社会事業・医療

事業に奉仕しました。また子供の教育の為に、はる夫人と共に私財を投じて小学校(青山学院初等科)を創立しました。

“何ごとも人々からしてほしいと望むことは人々にもその通りにせよ” これは米山梅吉氏の願いでもあり、ご自身の生涯そのものでした。“他人への思いやりと助け合い”の精神を身をもって実践しつつ、その事について多くを語らなかった陰徳の人でした。

世界の平和を願って—なぜ留学支援なのか。

「今後、日本の生きる道は平和しかない。それをアジアに、そして世界に理解してもらう為には、一人でも多くの留学生を迎え入れ、平和を求める日本人と出会い、信頼関係を築く事。それこそが日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業ではないか」事業創設の背景には当時のロータリアンのこのような思いがありました。

それから 60 年余りの歳月が流れましたが“民間外交としての世界に平和の種子を蒔く”という米山奨学事業の使命は一貫して変わっていません。

むしろ、今日の世界情勢と日本の置かれている状況を考えるとき、その使命はますます重要性を増しているのではないのでしょうか。

留学生への支援は未来に向かって平和の架け橋をかける尊い奉仕なのです。

東北地区ロータリークラブ親睦野球大会 勝利
10月13日(土) 対 高島 RC
於 大船渡市営球場

